

地球のこと
考えよう!

HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を

地球にやさしい・エコプロジェクト

Green Heart
HOKKAIDO
2006 HOKKAIDO TOSHIGAKU SUMMIT

家庭から出た ゴミはどこへ 行くの?



1人1日あたりのゴミの量は約1.2kg

北海道の一般廃棄物の総排出量は253万3,000t (2004年度)。札幌ドームの容積(クローズドアリーナ・1,580,000)に置き換えると約5.3杯分になります。また道民1人1日あたりの排出量は1,222g (04年度)で、この量は年々減ってきていますが、全国平均の1,086g (04年度)に比べると少し多めです。

全体の約20%は「リサイクルゴミ」

集められたゴミは材質ごとに分別され、そのうち2.9%は埋め立てなどでそのまま処分、77.4%は焼却処理されています。残りの19.7%は紙や金属・プラスチックなどの「リサイクルできるゴミ」です。19.7%のうち5.1%がそのままの形で直接再利用され、14.6%は中間処理によって資源化された後にリサイクルされています (05年度)。

ゴミを減らすことは CO₂削減と どんな関係?



「大量のゴミ」が「大量のCO₂」になる

ゴミの約8割を占める「燃えるゴミ」は各自治体の焼却施設で処理されていますが、その際に大量のCO₂が大気中に放出されています。2000年度をピークに家庭から出るゴミの量は少しずつ減ってきていますが、環境のことを考えるとまだ充分とは言えません。地球温暖化を防ぐために、まずゴミの量を減らしましょう。

モノを大切に長く使う工夫を

ゴミによるCO₂を増加させている原因の一つが「使い捨て」。ゴミは運搬する時にも、焼却する時にもCO₂を排出します。モノをつくる時にも資源やエネルギーを使うので、その過程でCO₂が排出されます。つまり古いモノをゴミに出して新しいモノを消費するスタイルは、結果的にはCO₂を2回発生させていることになります。モノを大切に長く使う工夫をしましょう。



5273万t

地球環境 ノート

VOL. 4

「北海道発・地球環境ノート」は、「地球温暖化」防止に向けた温室効果ガス6%削減を実現するために、世界・日本・北海道の環境の“いま”や今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズでお伝えします。

シリーズ4回目の キーワードは“5273万t”

2005年度の家庭ゴミなどの

一般廃棄物の総排出量がこの5273万tです。

ゴミは、ゴミの運搬、焼却、埋め立ての際に

たくさんのCO₂を排出し、

地球温暖化にも大きくかかわっています。

この「地球環境ノート」をヒントに、

毎日のゴミを減らす方法を考えてみませんか?

Re-Styleって 何?



3つの“Re”でリ・スタイル (Re-Style)

「3R」という言葉をご存知ですか? 「3R」は「リデュース (Reduce)」 「リユース (Reuse)」 「リサイクル (Recycle)」 の3つの英語の頭文字を表しています。リデュースは、モノを大切に使いゴミを減らすこと。リユースは使えるモノは繰り返し使うこと。リサイクルは、ゴミを資源として再び使用すること。「3R」に取り組むライフスタイルやビジネススタイルを、頭文字の“Re”から「リ・スタイル (Re-Style)」といいます。

循環型の社会システムをめざして

ゴミをできるだけ出さずに再利用し、限りある資源を大切に使う、それがRe-Styleの考え方。これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」のスタイルを見直し、環境に優しい循環型社会を実現するためには、消費者・メーカー・地方自治体などが協力しながら取り組む必要があります。今こそ、わたしたち一人一人の努力が求められているのです。

Re-Styleな 生活って どんな暮らし?



今日からできるRe-Style生活

Re-Styleは誰でも気軽に始めることができます。例えば皆さんが毎日しっかり守っているゴミの分別。これも立派なRe-Styleです。また古着の生地でパッチワークを作ったり、フリーマーケットで使わなくなったものを売ったりするのもRe-Style。身の回りのモノに愛着を持って、長持ちするように使い、使った後はルールを守って捨てること何よりも大切なのです。

市町村・自治体もRe-Style!

Re-Styleの輪はいま全国に広がっています。京都市では家庭で使用された食用油を回収し、バイオディーゼル燃料として精製するリサイクル事業を1997年度から展開中です。また北海道も「ごみゼロ・プログラム北海道」を2000年度に策定し、再生が可能なバイオマス(生物資源)を活用するなど、北海道らしい循環型社会の形成を目指しています。

監修/小野有五(北海道大学・大学院 地球環境科学研究院教授) ※参考資料:北海道「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成16年度実績)について」、環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成17年度実績)について」、経済産業省「3R政策」ウェブサイト、環境省「Re-Style」ウェブサイト、京都市環境局「廃食用油燃焼化事業」ウェブサイト、北海道庁「北海道循環型社会推進基本計画」

はじめよう
「地球にやさしい生活」

-1kg

エコバッグで
CO₂削減

ecobag

スーパーやコンビニで買い物をしたときにもらうレジ袋。軽くて丈夫、捨てるときはゴミ袋にもなる優れモノですが、地球温暖化のことを考えると問題があります。レジ袋の原料はポリエチレンなどの合成樹脂なので、つくるときにも、そしてゴミとして燃やすときにもたくさんCO₂を排出するのです。

エコバッグ、出かける時は忘れずに!

1人が1年間で使用するレジ袋は平均で230枚。エコバッグを1枚持ち歩くだけでその分の石油原料が節約でき、CO₂の排出量も1世帯あたり年間約58kgも削減できます。また最近のスーパーの一部にはレジ袋が要らないことを表示するカードが用意されているので、積極的に活用しましょう。

便利で地球に優しいエコバッグですが、使い始めのころはいついつ持ち歩くのを忘れがち。予備のエコバッグをカバンや自動車の中に用意しておく、お出掛けの時の「うっかり忘れ」が防げます。

参考資料:環境省 「チーム・マイナス6% 買い物とごみで減らそう」

小野有五 の 伝言板



トータルアドバイザー
小野有五氏(おの・ゆうご)
北海道大学・大学院
地球環境科学研究院教授

カーロの学校

ドイツの田舎にゴミ箱のない小学校がある、と聞いて訪ねていきました。まさか、と思っていたのですが、本当に小さなバケツが一つあるだけ。「紙は?」と聞いたら、「表も裏も使って、あとは古紙として再利用するので、立派な資源です。」と言われてしまいました。それで紙を減らそうと、1年生は箱のふたに砂を入れ、それでA、B、Cとアルファベットを書く練習をしていました。これなら何回でも使えますね。

教室には、森の土を入れた大きな水槽がありました。土の中にはミズミズがいます。最初はミズミズと聞いて気持ち悪い、という女の子もいたのですが、みんなでカーロくんという名前をつけました。日本なら太郎くんといったところですね。小学校は給食ではなくお弁当。リンゴの芯やバナナの皮を水槽の中に捨てると、無くなっていきます。あ、これはカーロくんが好きなんだ。でも、ラップやアルミホイルはいつまでも無くなりません。あ、これはカーロくんには食べられないんだ。カーロくんが食べられないものは使わないようにしよう!子どもたちはこうやってゴミを減らすことを学んでいるのです。

小野有五